

(6) 2016年 (平成28年) 11月10日 (木曜日)

11月24日は、サンクスギビングデー(感謝祭)。ターキーデー(七面鳥の日)と呼んたりもする。日本のプロテスタントでは、収穫感謝祭と呼ぶ。感謝祭の朝には、大統領が2羽の七面鳥を屠(ほふ)る運命から恩赦する行事がホワイトハウスでおこなわれる。

アメリカにおける感謝祭の由来は、17世紀にイギリスの清教徒たちによる、大陸移住の時にさかのぼる。彼らが開拓の苦境の中にいたときに、インディアンが彼らの生活を助けた。そして、収穫物が与えられたことに感謝するために、インディアンの人たちを招いてお祝いをしたことが、この祭りの始まりだ。

聖書の中に収穫祭の記述が示されている。主がモーセにこう仰せになった。「また、あなたが畑にまいて獲た物の勤勞の初穂をささげる刈入れ

南加キリスト教教会連合

神に感謝する

「サンクスギビングデー」

新井雅之

の祭り、あなたの勤勞の実を畑から取り入れる年の終りに、刈入れの祭りを行わなければならない」(口語訳・出エジプト記 23:16)

まず、筆者が感謝祭の話をする。まず、筆者が感謝祭の話をする。まず、筆者が感謝祭の話をする。

(口語訳)

疲れ果てた折に、野鳥たちの姿を見て、なんてたくましいのだろうと思うことがあ

る。安らぐ住処もないのに風雨に耐えて、自然の中でしなやかに生きていくのだ。

それに比べて、人間はあれこれと思い煩って、守られた環境下にあってもまだ脆い。自然災害に困り果て、懦弱に陥るだけではなく、人間関係や将来への不安に意気消沈してしまふのである。

だからこそ、私たちに必要なのは三位一体の神様なのだ。

弱さを誇ろう。弱さゆえに神様の愛と恵みを人一倍感じる。そして、主への感謝の気持ちが自然と芽生えくるのだ。全ての重荷を主にゆだね

ようではありませんか。

感謝祭は人だけではなく、神ご自身がお祝いされる祭りでもある。収穫物は私たち自身であり、神がみことばによって私たちの心に種をまき、それを成長させ、その実りを刈り取って神ご自身の倉へたくわえられる。そして、神はキリストにあつて創りだされた完成品を見て喜び、お祝いをされるのである。

そのとき私たち人間は、キリストの臨在が神の祝福の要となり、永遠の愉悦を浸る境地になれるのだ。サンクスギビングは、神をお祝いする祭りなのである。

(ウエストLAホーリネス教会)